

# 検 査 部

## 1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	2 人	(2 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	28 人	
その他（技術補佐員等）	15 人	
合計	45 人	

## 2 教員の異動状況

河野雅人（助教）(H25.4.1～現職)

釣谷大輔（助教）(H26.4.1～現職)

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	20.89	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	11.98	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kono M, Nakamura Y, Enomoto N, Hashimoto D, Fujisawa T, Inui N, Maekawa M, Suda T, Colby TV, Chida K. Usual interstitial pneumonia preceding collagen vascular disease: a retrospective case control study of patients initially diagnosed with idiopathic pulmonary fibrosis. *PLoS One*. 2014 Apr 15;9(4):e94775. [3.534]

インパクトファクターの小計 [ 3.534 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Enomoto N, Mikamo M, Oyama Y, Kono M, Hashimoto D, Fujisawa T, Inui N, Nakamura Y, Yasuda H, Kato A, Mimuro S, Doi M, Sato S, Suda T. Treatment of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis with direct hemoperfusion using a polymyxin B-immobilized fiber column improves survival. *BMC Pulm Med*. 2015 Feb 22;15(1):15. [2.489]
2. Hozumi H, Enomoto N, Kono M, Fujisawa T, Inui N, Nakamura Y, Sumikawa H, Johkoh T, Nakashima R, Imura Y, Mimori T, Suda T. Prognostic Significance of Anti-Aminoacyl-tRNA Synthetase Antibodies in Polymyositis/Dermatomyositis-Associated Interstitial Lung Disease: A Retrospective Case Control Study. *PLoS One*. 2015 Mar 19;10(3):e0120313. [3.534]
3. Matsushima S, Inui N, Yasui H, Kono M, Nakamura Y, Toyoshima M, Shirai T, Suda T. Indacaterol and tiotropium combination therapy in patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Pulm Pharmacol Ther*. 2015 Feb;30:11-5. [2.570]
4. Kato M, Fujisawa T, Hashimoto D, Kono M, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Hamada E, Miyazaki O, Kurashita S, Maekawa M, Suda T. Plasma connective tissue growth factor levels as potential biomarkers of airway obstruction in patients with asthma. *Ann Allergy Asthma Immunol*. 2014 Sep;113(3):295-300. [2.746]
5. Fujisawa T, Hozumi H, Kono M, Enomoto N, Hashimoto D, Nakamura Y, Inui N, Yokomura K, Koshimizu N, Toyoshima M, Shirai T, Yasuda K, Hayakawa H, Suda T. Prognostic factors for myositis-associated interstitial lung disease. *PLoS One*. 2014 Jun 6;9(6):e98824. [3.534]
6. Enomoto N, Kusagaya H, Oyama Y, Kono M, Kaida Y, Kuroishi S, Hashimoto D, Fujisawa T, Yokomura K, Inui N, Nakamura Y, Suda T. Quantitative analysis of lung elastic fibers in idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis (IPPF): comparison of clinical, radiological, and pathological findings with those of idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). *BMC Pulm Med*. 2014 May 28;14:91. [2.489]

インパクトファクターの小計 [ 17.362 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 河野雅人、須田隆文. 非特異的間質性肺炎-診断と治療、UCTD の意義を含めて- Respiratory Medical Research 2(2); 32-38, 2014. [0]
2. 下田 綾、前川真人：骨型 ALP 測定法。検査と技術 42(13)1382-1388, 2014 [0]
3. 石川仁子、前川真人：LDH(LD)アインザイム測定用の検体を冷蔵保存してはダメ！  
Medical Technology 42(13) 1322-1324, 2014 [0]

インパクトファクターの小計 [ 0 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Toyoshima M, Suzuki S, Kono M, Nakamura Y, Suda T. Mildly progressive pulmonary lymphangiectasis diagnosed in a young adult. Am J Respir Crit Care Med. 2014 Apr 1;189(7):860-2. [11.986]

インパクトファクターの小計 [ 11.986 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (60 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)

(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 濱田悦子 奨励研究

血清CA19-9の個体内変動幅が個体間で異なる原因は遺伝的要因によるものか。 60万円

(2) 厚生労働省科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

## 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	5 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	4 件
(6) 一般演題発表数	5 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Hamada E, Takayama T, Ozono S, Maekawa M : A case of prostate cancer producing granulocyte colony- stimulating factor. IFCC Worldlab Istanbul 2014

June 22-26, Istanbul Congress Center, Istanbul Turkey

2. Hamada E, Maekawa M : Analytical evaluation of third-generation allergen-specific IgE assay “3gAllergy™” Measurement by Automated Immunoassay System “IMMULITE 2000XPi”. AACC 2014 Annual Meeting& Clinical Lab Expo

July 27-31, McCormic Place Convention Center, Chicago USA

3. Hamada E, Maekawa M : Analytical evaluation of soluble IL-Receptor, ACTH, GH Measurement by Automated Immunoassay System “IMMULITE 2000XPi”. The 9<sup>th</sup> Cherry Blossom Symposium April 17-19, Yokohama Red Brick Ware House, Yokohama Japan
4. Kono M, Nakamura Y, Oyama Y, Enomoto N, Hashimoto D, Fujisawa T, Inui N, Suda T: Non-specific interstitial pneumonia precedes the diagnosis of collagen vascular diseases (Thematic poster presentation). American Thoracic Society International Conference. May, 2014 San Diego USA
5. Tsuriya D, Morita H, H Takuya, Sasaki S, Oki Y: The effect of Insulin Degludec (Deg) switched-over from other long-acting insulin analogues evaluated by continuous glucose monitoring (CGM) American Diabetes Association 74<sup>th</sup> scientific sessions , June 13-17, San Francisco USA

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名
  1. 濱田悦子 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会 (シンポジウム)
  2. 濱田悦子 第 54 回日本臨床化学学会年次学術集会 (一般演題)
  3. 濱田悦子 日本臨床検査自動化学会第 46 回大会 (一般演題)
  4. 濱田悦子 第 54 回日本臨床検査医学会東海・北陸支部総会、第 329 回日本臨床化学学会東海・北陸支部例会 連合大会 (一般演題)
  5. 濱田悦子 第 25 回日本臨床化学学会東海・北陸支部総会、第 33 回日本臨床検査医学会東海・北陸支部例会 (一般演題)

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 濱田悦子 日本臨床検査医学会 (評議員)
2. 濱田悦子 日本臨床化学学会 (評議員、国際交流委員会委員)
3. 濱田悦子 日本検査血液学会 (静岡支部評議員)
4. 小杉律子 日本検査血液学会 (静岡支部評議員)

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	0 件

## 9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件

(3) 学内共同研究	0 件
------------	-----

## 10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 特発性肺線維症における Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(Mac-2 binding protein glycosylation isomer; M2BPGi)の臨床的意義の検討

近年、糖鎖構造変化を検出する新規線維化マーカーとして M2BPGi 測定法が開発され、肝線維化の補助診断として臨床上有用であることが報告されている。M2BP は肺を含む種々の臓器において発現を認めるが、肝以外の臓器線維症における有用性は検討されていない。本研究では、当院呼吸器内科で診断された特発性肺線維症 (idiopathic pulmonary fibrosis; IPF) 症例を対象として M2BPGi 測定を行い、健常者と比較して有意に高値を示すことが判明した。また、IPF 症例において M2BPGi 値は、血清 KL-6 値、努力性肺活量、胸部画像の線維化スコア、肺病理組織の線維芽細胞巣 (fibroblastic foci) スコアなどと相関を認め、予後不良因子となることも示された。以上より、M2BPGi は IPF 症例における線維化バイオマーカーとして有用な可能性が示唆された。

(河野雅人、中村祐太郎、須田隆文、前川真人)

2. 糖尿病を合併する慢性腎臓病 (CKD) における最適な降圧療法についての研究

長時間作用型 Ca 拮抗薬としてアゼルニジピンの蛋白尿減少効果を検討している。また、ARB であるオルメサルタンの ACE2 活性と AT(1-7)増加による長期的な AT II とアルドステロン抑制作用を検討し、蛋白尿やインスリン抵抗性等との関係を明らかにし、糖尿病合併 CKD 患者における両者の併用の有用性も検討している。

(釣谷大輔、森田浩)

3. 耐糖能異常者における肝線維化マーカー (M2BPGi) の研究

新しい肝臓の線維化進展のマーカーである Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi) の耐糖能異常者における有用性を検討している。

(釣谷大輔、森田浩、渡邊良久、濱田悦子、前川真人)

4. インスリングルリジンとその他超速効型インスリン製剤間の作用特性の差異の研究

インスリングルリジンとその他超速効型インスリン製剤間における、入院・外来患者での食後血糖・血糖日内変動に及ぼす影響を比較検討し、食後早期血糖 (30~60 分) に対するグルリジンの作用の優位性を実証した。

(釣谷大輔、森田浩)

## 13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道